【症例報告】

Coix-seed Reactive Derivatives(CRD) 摂取が難治性貨幣状湿疹の改善に有用であった事例報告

Successful Treatment of Severe Nummular Eczema of Fingers with Coix-seed Reactive Derivatives (CRD): A Case Report

鈴木信孝^{1,*}, 橋本慎太郎², 許 鳳浩^{1,3}, 上馬場和夫^{3,4}
Nobutaka SUZUKI^{1,*}, Shintaro HASHIMOTO², Hoko KYO^{1,3}, Kazuo UEBABA^{3,4}

¹ 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 臨床研究開発補完代替医療学講座

² 大名町スキンクリニック

³ 医療法人ホスピー・浦田クリニック

⁴ 帝京平成大学

【要 旨】

ハトムギの外殻・薄皮・渋皮を含む全粒熱水抽出エキス (Coix-seed Reactive Derivatives; CRD) 摂取が有用であった両手指の難治性貨幣状湿疹の1例を経験したので報告した。患者は52歳、女性。2012年3月に湿疹が多数出現し、全身に広がった。貨幣状湿疹の診断のもとにステロイド軟膏と抗ヒスタミン薬の内服を受けるも、好転しないため、発症から3年目の2015年に薬を中止した。2017年10月からCRDを1包あたり2.2g含有する栄養補助食品を1日当たり2包摂取し始めたところ、急速に病変は改善し始め、摂取1ヶ月目には完治し、現在に至っている。本例は、発症から5年半という長期にわたって、とくに両手指に発疹と強い掻痒感が続いていたが、CRD摂取により、約1ヶ月という短期間に根治をみた例である。

【キーワード】

ハトムギ, CRD, ハトムギ反応生成物, 貨幣状湿疹

はじめに

ハトムギの外殻・薄皮・渋皮を含む全粒熱水抽出エキス (Coix-seed Reactive Derivatives; CRD) 摂取が有用であった難治性貨幣状湿疹の1例を経験したので報告した。

症 例

患者は、女性で、既往歴として子供の頃からアレルギー体質を有し、鼻炎や蕁麻疹を認めていた。35歳の時、顔や軀幹を中心にアトピー性皮膚炎を発症し、3年間で治癒した。その際、霊芝も摂取していたという。2012年3月、52歳の時、臀部を中心に赤く丸い皮疹が数多く出現。その後同年7月に皮疹は足から背部、両手、顔、頭皮へと全身に広がった。発症時の皮疹は丘疹が集簇し、表面には鱗屑を伴い、強い掻痒感を認めたという (Fig.1)。

近医を受診したところ、全身性の貨幣状湿疹と診断され、0.05%アンテベート軟膏 (ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル)、プロペト軟膏 (白色ワセリン) と抗ヒスタミン剤のアレグラ錠 60 mg (フェキソフェナジン塩酸塩) を1日2回処方された。しかし、あまり効果がなかったため、別の皮膚科を受診し、同様な薬を処方された。約1年間は医師の指示通り毎日ステロイド剤の塗布と内服薬を使用していたが、2年目からは痒くて我慢できない時のみ、2～3日間薬を使用した。内服薬で痒みは若干軽減したものの、湿疹が治まることはなかった。その頃から、霊芝を摂取し始めたところ、両手以外の皮疹は軽快した。3年目以降は霊芝に加えプラセンタ

受理日: 2019年2月20日

* 〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1 Tel: 076-265-2147 Fax: 076-234-4247 E-mail: pcam@med.kanazawa-u.ac.jp

Fig. 1 Eczema of left hand at the age of 52

Fig. 2 Eczema of hands at the age of 56

a : left hand b : right hand

エキスを摂取し始め、薬は一切使用せずに経過をみていた。

しかし、両手指の湿疹局面だけは、増悪を繰り返し、改善することは無く、強い掻痒感などで大変苦しい思いをしていたという (Fig.2)。ハトムギは肌に良いと考え、霊芝とプラセンタエキスは中止し、2017年10月(57歳)から1包あたりCRDを2.2g含有する栄養補助食品(大木産業株式会社製)を夕食後1包、就寝30分前に1包の計2包の摂取を開始した (Fig.3)。CRD摂取2ヶ月過ぎには、皮膚の掻痒感のみならず、湿疹も消失した。摂取6ヶ月目か

らは就寝前に1包だけを摂取し、現在に至っている (Fig.4)。2019年2月現在、湿疹の再発はない。

考 察

著者らは、CRD摂取が難治性の皮膚疾患に有効であった例をこれまでいくつか報告している。たとえば、アトピー性皮膚炎／発症から約4年→摂取から4ヶ月で完治¹⁾、皮膚亀裂を伴う手湿疹／発症から約15年→摂取から3ヶ月

Fig. 3 Eczema of hands at the age of 57

a : left hand b : right hand

These photographs were taken just before CRD (Coix-seed Reactive Derivatives) intake.

Fig. 4 Both hands at the age of 58

a : left hand b : right hand

These photographs were taken after 1 year of CRD intake.

※ CRD 4.4g/day for the first 6 months and CRD 2.2g/day for the next 6 months.

で完治¹⁾、掌蹠膿疱症／発症から約2年→摂取から2ヶ月で著明改善¹⁾、接触性皮膚炎／発症から約20年→摂取から6週間で完治¹⁾、尋常性痤瘡／発症から3年→摂取から3ヶ月で著明改善¹⁾、摩擦性黒皮症／発症から20年→摂取から3ヶ月で著明改善(in press)、皮膚の光老化によるしわ・色素沈着／発症から10年→摂取から3ヶ月で著明改善(in press)、足底疣贅／発症から1年6ヶ月→摂取から4ヶ月で完治²⁾などとなっており、本例の貨幣状湿疹も発症から5年半→摂取から2ヶ月後には完治している。また、いずれの例も西洋現代医学の治療に抵抗した症例であった。

CRDの作用機序としては、たとえば①Th1/Th2の免疫バランスをTh1優位に導きTh2を抑える³⁾、②様々な抗炎症、抗酸化物質を有する⁴⁾、③皮膚の線維芽細胞を増やしコラーゲン産生を促す(投稿準備中)、④抗菌作用⁵⁾、⑤皮膚上皮の増殖を促す(投稿準備中)などが挙げられるが、むしろ中医学的な考え方をすれば、皮膚のターンオーバーを促し、皮膚の上皮のみならず真皮にも働きかけ、いわゆる健康な皮膚を作る作用を有していると考えるのが適当かもしれない。事実、皮膚ターンオーバーが速い疾患である尋常性乾癬5例の観察では、CRD摂取が有効であった例はなかった(未発表)。

貨幣状湿疹は、本例のように病変が悪化し、散布疹を生じ、自家感作性皮膚炎に移行することも少なくない⁶⁾。病因としては、虫刺症から移行する例や、接触性皮膚炎から移行する例、また高齢者では皮脂欠乏性湿疹に続発する例も多く、アトピー性皮膚炎の一症状として出現することもある⁶⁾。治療としては通常、ステロイド剤の外用と抗ヒスタミン剤の内服を行う。

本例では、患者が皮膚科治療を中止したため、CRDの直接作用を観察することができたが、著者らは原則、通常医療を補完する形でのCRD摂取を推奨している。とくに、アトピー性皮膚炎の場合などは、CRDを併用することによりステロイドの離脱が容易になった例も多く経験している(未発表)。いずれにしろ、難治性皮膚疾患の場合、CRDを併用することは、有益な方法の一つとなるかもしれない。

まとめ

難治性貨幣状湿疹にCRDが有用な例を報告した。本ケースは、他の治療を並行して行っていなかったため、当該食品の直接作用を知る上でも大変貴重な症例であったと思われる。

助成元

なし

利益相反

本試験に用いたハトムギ全粒熱水抽出エキスCRDは著

者鈴木信孝らが設立した大学発ベンチャー企業(株)CRDの研究開発食品である。

参考文献

- 1) 鈴木信孝, 許鳳浩. ハトムギ全粒熱水抽出エキス:事例研究. 日本補完代替医療学会誌. 2018; 15(2): 127-132.
- 2) 鈴木信孝, 川島拓也, 許鳳浩ら. Coix-seed Reactive Derivatives (CRD) とビタミン剤の併用療法により根治した難治性疣贅・コンジローマ症例. 日本補完代替医療学会誌. 2018; 15(2): 133-139.
- 3) 鈴木信孝, 許鳳浩, 上馬場和夫. Coix-seed Reactive Derivatives (CRD) のTh1/Th2バランスに与える影響. 日本補完代替医療学会誌. 2018; 15(2): 113-116.
- 4) 鈴木里芳, 徳田春邦, 鈴木信孝ら. ハトムギの抗腫瘍ならびに抗炎症作用に関する検討. 日本補完代替医療学会誌. 2013; 10(2): 75-85.
- 5) 鈴木信孝. ハトムギと健康体質. FOOD STYLE 21. 2014; 18(6): 57-61.
- 6) 清水宏. あたらしい皮膚科学. 第3版. 東京. 中山書店. 2018: 125.

ABSTRACT

Successful Treatment of Severe Nummular Eczema of Fingers with Coix-seed Reactive Derivatives (CRD): A Case Report

Nobutaka SUZUKI¹, Shintaro HASHIMOTO², Hoko KYO^{1,3}, Kazuo UEBABA^{3,4}

¹ *Department of Complementary and Alternative Medicine Clinical Research and Development,
Kanazawa University Graduate School of Medical Science*

² *Daimyomachi skin Clinic*

³ *Urata Clinic, Hospy Medical Association*

⁴ *Teikyo Heisei University*

In this report, we presented the case of a 52-year-old woman who developed intractable nummular eczema of fingers for over 5 years. Coix-seed Reactive Derivatives(CRD) was administrated orally 2.2 g twice a day for 6 months. The lesions cured markedly within one month. Although CRD intake seemed to be effective in this case, further studies are needed to define the optimal dose of this food.

Key words: *Coix lacryma-jobi* L. var. *ma-yuen* Stapf, CRD, Coix-seed reactive derivatives, nummular eczema